令和6年度　学校評価報告書　　田村市立船引南中学校

経営理念	船引南地区学校運営協議会目標　豊かな心と確かな学力を身に付け、夢に向かって取り組み続ける子どもの育成 船引南中学校教育目標　（夢）　課題をもち、進んで学習する生徒 （愛）　さわやかで、思いやりのある生徒 （自立）健康で、たくましく心身を鍛える生徒

経営目標		評価項目	自　己　評　価			学校関係者評価		改善策等
			達成状況	評価	改善策案	考察	評価	
夢	○課題をもち、進んで学習する生徒	①難しい問題に粘り強く取り組んだり積極的に話合い活動に取り組む意欲を育成する。	肯定的な意見が８割以上であり、昨年度より増加している。課題が解決できるよう努力する生徒が多く、学力調査においても無回答率が少なく、答を導き出そうと努めていることがうかがえる。一方で、わからないことを教員に聞く生徒が少ない。話合い活動については、キャリア教育推進３年目となり、学級活動や各教科、総合的な学習の時間における話合い活動の充実が見られる。最後は多数決に頼ってしまう傾向がある。	B	学習形態を工夫しながら、質問しやすい授業の雰囲気づくりに努めるとともに、問題に合う適切な表現方法を身につけさせ、自分の解答に自信をもたせる。話合い活動の意義や集団で学ぶ必要性を実感できる議題・題材を各教育活動で準備していく。また、双方が納得できる解決の仕方を習得するための教員のスキルの向上を図る。	授業を参観したところ、生徒同士で相談して解答を見つけていくという授業が多く見られた。	B	教科指導の専門家として教材研究を入念に行い、話合い活動をとおして解決できる課題の設定とまとめ方について注力していくよう努める。
		②自分に合った家庭学習時間を確保させる。	まったく学習していない生徒はほとんどいないが、２時間以上学習している生徒が１割、１時間以上学習している生徒が５割と、家庭学習への意識はまだまだ低い。保護者から見た生徒の学習時間はさらに短い。	C	生徒が家庭学習の必要性を理解し、取り組みを充実させる指導を工夫し、習慣化を図る。	課題や内容等から考えると１～２時間は少ない。自主学習の仕方がわからない生徒もおり、時間だけでなく質も上げていく必要がある。メディアに時間を費やしていることも関係している。	C	力が身につく自主学習の方法を指導していく。家庭学習の必要性を、将来の夢や目標と高校進学の両面から考えさせていく。学級活動や教育相談等で１日の生活を振り返るなど、自己管理能力を養う指導に努めるとともに、保護者の協力を得ていく。
		③読書の習慣を身に付けさせる。	肯定的な意見は生徒、保護者とも半数程度と、昨年度とほぼ同割合である。読書は好きだが、読書の習慣がない、読みたい本がないと回答する生徒がいる。	C	教科教室型を活用し、図書室と国語科室を連動させ、読書への意識を高めていく。図書支援員と協議の上、望ましい図書館教育を検討する。	読書の習慣が身につくよう、学校と家庭の連携が必要である。	C	朝の活動としての１０分間の読書を継続していく。家庭と協力して読書の習慣化を図るよう努める。
愛	○さわやかで、思いやりのある生徒	④進んで気持ちのよいあいさつができるようにする。	肯定的な回答が生徒、保護者、教職員とも８割以上である。来校者から「清々しい気持ちになった」と称賛をいただくことが多い。生徒会が定期的にあいさつ運動を実施するなど、生徒間でもあいさつの大切さが理解されている。	A	「相手に伝わるあいさつ」を実践できるよう、学校・家庭・地域が協力して「大人としての手本」となれるよう努めていくことが大切である。	あいさつの習慣は、家庭で実行されていないと学校でもスムーズにできない。家庭で基本的なあいさつである「おはよう」「行ってきます」「ごちそうさま」など、再度認識してもらう必要がある。	B	家庭と協力して、あいさつの意義や相手に伝わるあいさつの指導に努める。
		⑤社会の決まりを守ることができるようにする。	肯定的な回答が生徒、保護者、教職員とも９割以上である。学校生活でもきまりを守れなかったことによる指導はほとんどなかった。生徒の姿から、公共のマナーや規範意識を家庭で幼少期から習得させていただいていることがわかる。	A	規範意識の過度な高まりにならないよう、多様な個性を認めつつ、安心・安全で楽しく生活していくためには、一定のルールやマナーなどのきまりが必要だということを生徒と確認し、「みんなで決めたルールをみんなで守る」学校にしていく。	概ねきまりを守ることができていると感じる。社会のきまりを守れているのであれば、自分で規則正しい生活ができるのではないか。	B	義務教育修了に向けて、自分のことは自分でできるよう、学級活動等で生徒に生活を振り返らせるとともに、教育相談や学年懇談会等で家庭の様子や課題を保護者と共有していく。
		⑥思いやりをもち周囲に接することができるようにする。	肯定的な回答が生徒、保護者、教職員とも９割以上である。おだやかな気質の生徒が多く、周囲のことを考えた言動を心がけて生活しており、他人を傷つけない気遣いの大切さを理解している。一方で、自分より相手を優先して行動する生徒や自分の考えを表現できない生徒が見られる。	B	話合い活動を充実させ、自分の考えをもち表現することの大切さや、複数の考えから自分にとっても相手にとってもよい考えをつくる折り合いのつけ方などを学ぶ経験を積めるよう指導していく。	思いやりはよく身についている。自分の考えが表現できるよう、一人ひとりの考えは違って当たり前だということを全員で共有できる環境づくりが大切である。	B	各教科や道徳科の授業をとおして、自分とは違う考えを知り、新たな考えをもてたり学びが深まったりする経験を積ませられるよう、授業力向上を図る。

自立	○健康で、たくましく体を鍛える生徒	⑦きまりを守ってソーシャルメディアを使ったり規則正しい生活を送ったりする習慣を身に付けさせる。	規則正しい生活を送れているという生徒が８割以上だが、保護者は７割未満と差が見られる。生活リズムの乱れからくる遅刻や体調不良等を繰り返す生徒はほとんど見られない。ソーシャルメディア利用の約束を９割以上の家庭で守られているが、電子機器の活用が動画視聴やゲーム、SNS等に偏っている。長時間の活用に悩んでいる家庭もある。今年度から生徒用学習タブレットの持ち帰りを認めているが、トラブルは起きていない。	B	学級活動等で生徒に生活を振り返らせるとともに、教育相談や学年懇談会等で家庭の様子や課題を保護者と共有していく。心身に与える影響やインターネット以外の余暇の活用について考える機会を設定し、意識の改善を促していく。	中学生になると部活動が終わって帰宅し、夕食をとってから学習するため就寝時間が遅くなりがちなので工夫が必要である。学校保健委員会で実施した「SNSによる健康被害について」の講演を生徒・保護者全員を対象にしてはどうか。参考資料を見て使用時間に驚いた。ICT活用のメリットとデメリット等の理解が必要である。。	B	各教科の提出物を先を見通して計画的に進めることや、平日と休日の家庭生活の優先順位のつけ方を考えるなど、家庭と協力して進めていく。学校保健委員会と生徒対象の情報モラル教室をタイアップして保護者の参加も促す。保健体育や学級活動をとおして、ＩＣＴ活用のメリットとデメリットや自身の生活を振り返る機会を設定する。
		⑧好き嫌いをしないで食事をとることができるようにする。	肯定的な回答が生徒は８割以上だが、保護者は８割未満である。定期的な朝食調べの結果から、ほとんどの生徒が欠かさず朝食を摂取している。給食も好き嫌いなく食べ、残食量も少ない。	B	給食便りや保健便りをきっかけに、自身の健康や食生活に関心が高まるよう情報提供と充実を図る。	規則正しい生活が食生活にも影響するので良い。バランスの良い食事について基礎的な知識を持っていても実践できないのか、そもそも知識が十分に身についていないのか、実態調査が必要なのではないか。	B	保健体育や学級活動などで正しい知識を身につけ、自身の生活を振り返る機会をもたせたい。ごはんコンテストやマイ弁当を継続していく。
		⑨目標を決めて運動に取り組む意欲を育てる。	肯定的な回答が生徒は７割以上、保護者は６割以上である。多くの生徒が体育の授業が楽しいと感じている。運動部の練習も意欲的に活動している。昼休みは学年を越えて体育館で好きなスポーツを楽しんでいる。部活動引退後の３年生の運動量が著しく減少してしまう。	B	保健体育や学級活動をとおして、体を動かす意識を高めさせたい。生徒会がミニ体育祭を企画しており、継続できるよう支援していく。	運動部に入らない子が増えているのは選択肢が少ないことも要因の一つではないか。大会に出ることも大切だが、毎日運動する習慣をつけることも大切で、好きなスポーツをできるようにすることは難しいのか。運動の醍醐味を味わうのは部活動なので、できるだけ多くの生徒が参加の意欲を持てるよう引き続きご指導をお願いしたい。部活動が強制でなくなると、集団行動が苦手、忍耐力がないなど将来仕事をする上で支障が出ると考える。	B	運動が苦手な生徒もいるので、部活動を運動部のみにするということはしない。生徒が学校外の団体で活動している場合や生徒の希望に応じて、柔軟に対応していきたい。来年度は田村市教育委員会主催の部活動地域移行練習会が１０回予定されており、内容を確認の上、積極的な参加を生徒・保護者に促していく。
全般		⑩学校に楽しく通ったり将来の夢や目標をもったりして生活できる。	学校に楽しく通えている生徒が９割以上であり、保護者、教職員も楽しく通えていると捉えている。学習や部活動、行事等にやりがいを見いだし、学級や部活動の人間関係が安定している生徒が多いことがうかがえる。将来の夢や目標をもって生活している生徒は８割以上である。キャリア教育の推進モデル校として注力してきた成果と考えられる。	A	思春期で無気力や不安定な状態になりやすい時期であるので、各生徒が学校生活に目標をもち、楽しいと感じることができる学校運営に努めていく。生徒に将来への希望や生き方を考える機会や体験の場を提供するとともに、適切に称賛、助言を行い、自分のよさに気づかせ自己有用感を育んでいく。	９割以上の生徒が楽しく学校生活を送れていて素晴らしい。否定的な回答があるので、悩みを相談しやすい環境づくりが大切だと思う。生徒にとって「学校が楽しい」とは具体的にどのようなことなのか大人が理解することが必要である。楽しく学校に通えている一方で夢や目標をもって生活できていないことに驚いた。部活動をとおして夢や目標ができ、学校に行く力になるのではないか。夢や目標をもてていなくても、自ら考え、実践していくことが大切である。	B	学級や生徒会活動などの話合い活動を充実させ、学校は自分たちが主体となって動いているということを実感させる。今年度の教育講演会のように、小・中学生と保護者、ＣＳ委員が意見交換できる機会を継続して設定していく。学校の課題にも、家族で意見交換が必要なものを時折加えていくよう努めることで、家庭で夢や目標、将来のことなどを話す機会が設けられるよう働きかける。
		⑪子どもの相談に親身になって対応し、いじめのない学級づくりに努める。	生徒、保護者の９割程度が、学校が子どもの相談に親身になって対応していると回答している。いじめのない学級づくりについては、生徒全員が肯定的な回答だった。各学級や部活動における生徒の居場所づくりやいじめを許さない雰囲気づくりに努めるとともに、定期的な調査や教育相談により、安心して生活できるよう取り組んできた成果と考えられる。	B	少数ではあるが、生徒、保護者に否定的な回答が見られたので、０を目指して真摯に取り組みたい。「先生は自分のことを気にかけ、理解しようとしてくれる」と感じることができる関わり方をしていきたい。	学校だけでなく家庭と連携して対応することが重要である。同じような悩みを経験して乗り越えてきた保護者や地域の大人などによる会をつくり、気軽に相談できる場があるとよいと考える。教職員の負担をできるだけ少なくする取り組みも必要である。	B	生徒の小さな変化を見逃さないことはもちろん、日頃の学校への電話連絡や部活動送迎、授業参観等における教職員の言葉かけを丁寧にし、保護者とのより良好な関係の構築を図る。働き方改革の目的を再確認し、教職員が生徒と共に過ごす時間を増やし、相談しやすい環境づくりに努める。
		⑫保護者や地域の要望に応え連携を密にする。	９割程度の児童・保護者が肯定的な回答だった。昨年度より自由記述の意見が少なかった。校舎、校地の修繕要望、安全面へのご意見をいただいた。	B	市教育委員会と協議し、迅速に、適切に対応していく。	生徒が命に関わるような事故なく過ごせたことは、きめ細やかな安全管理の賜物である。学校の環境整備は限界があるので、教育委員会に率先して動いていただきたい。	B	施設管理を徹底し、市教育委員会と連携を図り、生徒が安心して学べる環境を整備していく。

【評価基準】A:十分満足　B：おおむね満足　C:もう少し努力が必要　D:大いに努力が必要

※学校関係者評価は学校運営協議会委員による